

Wish

世界の子どもたちのために

vol. **63**

2021年1月号



©UNICEF/UNI340770

ロヒンギャ難民キャンプの学習センターが閉鎖されているため、母親と先生の助けを借りながら自宅で勉強する女の子。

CONTENTS

EVENT REPORT

- 2 2020年度第1回国際協力入門セミナー 地球のステージ
- 3 2020国際理解講座④ コロナ後の世界を生きる
- 4-5 第42回ユニセフハンド・イン・ハンド募金に向けて
ユニセフパネル展・写真展

6-7 活動ファイル
2020年9月～12月

8 お知らせ

アメリカで始まった人種差別抗議運動以降の香港やタイ、ナイジェリアなどのデモは、背景は違うものの声を上げることのなかった普通の市民がデモという形で意思表示をしたという点で今までとは異なります。根底には、人種や民族、立場の違いによる差別とそこから生まれる格差があります。それが不満となって渦巻き、身近なツールとなったSNSで多くの人が共有し広がります。

また、日本では報道されていませんが、アフリカの国々では紛争が多発しています。最近気になっているのは国際協力などでは解決できないエチオピアの民族間の争いです。これらの紛争がこのところ起きている市民の意思表示と一緒にあった時に、次の時代がどのようになるのか。オンラインだけでは解決できない対面の大切さを改めて見直す必要があります。



大津 司郎さん
ジャーナリスト。40年以上、野生世界と時事問題の両面からアフリカを追及し続けている。

ナイロビの近郊にあるキベラスラムには、衛生環境の悪く、100万人を超える人々が長屋で密集して暮らしています。生きる希望を与えたいと始めたマゴソスクールには、500人以上の子どもたちがいます。

ケニアでは新型コロナウイルスの感染者が出るとすぐにロックダウンが始まり、行動の自由が規制されました。そして一番コロナの影響を受けやすいスラムがコロナの感染スポットになると、住民は仕事を無くし食べ物を手に入れることも難しくなりました。そこで食料配布を始め、マスクも作り配りました。このような状況下でも住民は生き抜こうと助け合い励まし合って暮らしています。

SNSの発達した今だからできることがあると、スラムの現状をFacebookライブで世界に発信しています。



早川 千晶さん
ケニアのキベラスラムを中心に、子どもたちのための学校や家を運営するなどの支援活動を行っている。

大学に行けない学生たち、オンラインでの遠隔授業、厳密な入試の困難さなど、コロナのために大学の現場でさまざまなことが起きました。大学とは学生たちに何を伝えていくところなのかを改めて考える機会になっています。

今大切にしなければならないのは、例えば大学では学生が来て笑い声がするという今まで当たり前だと思っていた普通のことです。またSNSの時代、大学の役割は知識の披露から体験やつながりを大切にすることに変わってきています。

コロナで教育が一番失ったものは「出会いの偶然」(セレンディピティ)です。これはオンラインでは起きにくく、人と人のつながりから生まれる能動的な体験なのです。社会とのつながりが失われる中で、学生が無関心になってしまう。これを押しとどめることができるのは「出会いの偶然」なのです。



かい のぶよし
甲斐 信好さん
拓殖大学国際学部教授。長年、ゼミ生を連れてケニアやルワンダへアフリカスタディツアーを開催。

2020 年度第 1 回国際協力入門セミナー

公演

地球のステージ

EVENT REPORT

桑山 紀彦さん

精神科医、心療内科医、海老名こころのクリニック院長。NPO 法人「地球のステージ」代表理事。1996 年より60を超す国や地域で医療支援活動を展開し、現在は、紛争地や被災地で心に傷を負った人々への心理社会的ケアを中心とした活動を行っている。



「地球のステージ」は世界各地での支援活動を通して感じたことを桑山さん自らが映像と音楽にして、生の語りと歌で届けるものです。いつもは舞台上の大画面を使ったライブステージですが、今回は桑山さんのクリニック待合室からのオンラインによる公演と交流会になりました。

Event Data イベントデータ

日時	2020 年 10 月 10 日 (土)
案内人	桑山紀彦さん
主催	JICA 関西、(公財)兵庫県国際交流協会、JICA 海外ボランティアひょう応援隊、兵庫県ユニセフ協会
参加者	第一部 233 人 第二部 100 人 (6 サテライト会場参加者を含む)



サテライト会場で
大きな画面を見る参加者

2020 国際理解講座④

オンラインセミナー

コロナ後の世界を生きる

SNS・インターネットは、世界中の今を共有できるなどの便利さの反面、使える人と使えない人の格差を広げています。それは暮らしや教育に大きな影響を及ぼしています。実際貧困度が増したキベラスラムでは、お金や食べ物につられて、10代前半の女の子たちが組織化したギャングに大勢取り込まれ、学校もやめています。

世界の協力で病には打ち勝つことはできませんが、コロナの結果起こった国際社会の大きな変化は元には戻りません。特に開発途上国や貧困層などでは経済や社会構造、子どもたちなどへの影響は長く残ります。傷ついた子どもたちを回復させるには、ダメージを受けた所をみんなで注意深く丁寧に手当て

昨年には世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるい、人々はさまざまな影響を受けました。私たちは何を考えどう暮らしていけばいいのか。アフリカに関わりの深い3人の講師の方々と考えました。

講師一人ひとりからの話の後、参加者の質問を交え、神戸とナイロビ(ケニア)を結んだトークセッションが行われました。

最後に、早川さんは「貧しいスラムで生きている仲間の息づかいを伝えることで皆がつながって、他の国の人も涙したり励まされたりする。世界で起きていることを自分のこととしてとらえ、何かをできる自分になりたいと思うことが世界を変えるはずだ」と話され、大津さんは「SNSではコロナで深まる分断や対立は解決できない。アフリカのネットワークで生きてきて感じたことは、オンラインよりも肌で感じる体験の中からしか人の絆や思いやり、関心は生まれないということ。自分で体験することが全ての始まりだ」と話されました。甲斐さんは「コロナ禍というピンチの時

人の青年海外協力隊員が支援活動をしており、小さな幸せに感謝できるようになったと語っていました。「足るを知る」ということを教えられます。

新型コロナウイルスとの付き合い方は、増殖させないようにして共存していくことです。しっかりと予防した上で、今は心を豊かにする活動を再開して行く時です。桑山さんは新コロナ君というキャラクターと明るい歌を作り、みんなが前を向けるように応援しています。

第二部 トーク交流会「With コロナの国際協力を考える」(Zoom)

交流会では参加者からの質問に対し、桑山さんは丁寧に時にはユーモアを交えて答えていかれました。

桑山さんが言う「コロナとの共存(With コロナ)」とは、撲滅することではなく、バランスを保ちながら住み分けをすること。これは人類同士の平和にもつながることです。

私たちは自由に移動し人と会うことができなくなった時、社会での自分の存在意義や人との絆、学校へ行くこと

の意味などを考えました。新しいツールを使うことで、以前より多くの人とつながったり、スムーズな意思疎通ができることにも気付きました。コロナ禍もダン先生が亡くなったことも、すべてのことには意味があって、悪いこともそれが良い事のきっかけとなることもあるのです。

NGOの活動はデジタルでもできていますが、それは補完的なもので、現地での活動もルールに従って再開していきます。活動のための情報や知恵はJICAや協力隊員からいつももらっています。

学校での公演もできる限りの対策をして再開しています。コミュニケーションをふさがれた状態が続いている子どもたちは、外からの刺激に本当に飢えていて、対話をしてみると、聞きたい発信したいというあふれる思いが伝わってきます。

今世界で起きていることに自分がどう関わるかを考えるには、SDGsの項目を切り口にすることも有効です。また自分に特別な知識がなくても誰かを後方支援することでもいいと、桑山さんは話されました。



には、世界であるいは自分の側で困っている人はいないかと、注意深く耳をすませて意識を向けることが大切だと締めくくられました。

Event Data イベントデータ

日時	2020 年 11 月 14 日 (土)
講師	大津司郎さん・甲斐信好さん・早川千晶さん
参加者	89 人

第42回ユニセフハンド・イン・ハンド募金に向けて ユニセフパネル展・写真展

EVENT REPORT

兵庫県ユニセフ協会では、10月から3回のユニセフパネル展・写真展を開催しました。例年11月から12月には、街頭での呼びかけを中心としたユニセフハンド・イン・ハンド募金を実施してきました。しかし2020年は新型コロナウイルス感染症予防のため、街頭に立つことを控えました。そこで、「コロナ禍において奪われようとしているかけがえのない「子ども時代」をすべての子どもが過ごせるようにするために、世界の子どものことやユニセフ活動について知ってもらう展示イベントを行いました。毎回会場には「すべての子どもに、を。」というポスターを掲げ、来場者に空欄に入れることを考えてもらうようにしました。



ユニセフパネル展 ユニセフってなあに？



- ▲募金を呼びかけるポスターをつくりました
- ▶右から順に：ワクチン用保冷箱、水がめ、レクリエーションキット、SDGs ルーレット

現在も多くの国で紛争が続き、厳しい状況にあるアフリカ。その影響を一番受けるのが、人口の半分以上を占める子どもたちです。故郷を追われ、さまざまな形態の暴力の犠牲になり、栄養失調や感染症に苦しみ、教育を諦めざるを得ない子どもたち…。ユニセフはそんなもつとも弱い立場に置かれた子どもたちに支援を続けてきました。

- 1 蚊が大発生。黄熱病の流行が起きかけましたが、予防接種をすれば熱はでません。
- 2 村に新しくできた小学校に、12歳のサフィアトゥが通い始めました。
- 3 村の長老アダモじいさんは、孫娘のカリマをまだ14歳のうちに結婚させようとしていました。



ユニセフパネル展 アフリカの子どもたちの物語

2017年8月、ミャンマー西部で長年差別と迫害に苦しめられてきた少数民族ロヒンギャの人々は武力弾圧から逃れて隣国バングラデシュに押し寄せました。何もない野原にできた難民キャンプに100万人近くが密集し、不衛生な環境や栄養不良によって子どもたちの命が危険にさらされています。ユニセフは

シユ政府は学習センターの運営や職業訓練の提供などを行い、人々が自ら未来を切り拓いていくための支援をしています。また恐怖を経験した子どもたちは、ユニセフと支援団体が設置した「子どもにやさしい空間」で感情を表現し、笑顔を取り戻していきます。(2020年3月以来、新型コロナウイルス感染症のため、キャンプ内の教育施設は閉鎖中。)

2019年6月、ドイツプロサッカーリーグで活躍する日本ユニセフ協会大使の長谷部誠選手は、子どもが半数以上を占める世界最大規模のロヒンギャ難民キャンプを訪問しました。過酷な現実の中にいる人々の姿を見て、現在だけでなく未来への不安をどれだけ取り除いてあげられるかを考えることが大事、というメッセージを寄せています。



ぬかるんだグラウンドで元気な子どもたちとサッカーをした長谷部選手。



6 難民自らがボランティアとして保健の知識などの普及に取り組んでいます。



7 まるでひとつの街のようなコックスバザール県のクッパロン難民キャンプ。

ユニセフ写真展

長谷部誠大使 ロヒンギャ難民キャンプ訪問

～未来を切り拓くために～

言葉より多くを語るもの

～ロヒンギャ難民の子どもたちを癒す「心のケア」～



4 アートプログラムの一環で「子どもにやさしい空間」の壁に描かれた絵。(2018年5月)



5 アブドゥル君(仮名)が描いた、ミャンマーを逃れる際に目にした凄惨な光景。(2017年11月)



Data イベントデータ

期間 10月22日～29日 ユニセフパネル展「アフリカの子どもたちの物語」
11月25日～30日 ユニセフパネル展「ユニセフってなあに？」
12月1日～11日 ユニセフ写真展
「長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問～未来を切り拓くために～」
「言葉より多くを語るもの～ロヒンギャ難民の子どもたちを癒す心のケア～」
会場 コープこうべ生活文化センター1階展示室(神戸市東灘区)

2 ユニセフシアター&講演会

講 師 岡 真理さん
日 時 2020年9月5日(土)
会 場 西宮市大学交流センター
参加者 48人

※ユニセフシアターは(公財)兵庫県国際交流協会民間国際交流事業助成事業として開催しました。

講演会では、映画『プロミス』を題材に、幾度となく平和への道を歩もうとしながら、一向に解決の道が見えないパレスチナ情勢の根底にある問題について考えました。

岡さんは、パレスチナの歴史、パレスチナ人の境遇、シオニズム、映画の様々な場面に込められた思いなどを話されました。『プロミス』は、1997年～2000年にかけてパレスチナ自治区やエルサレム近郊の子どもたちと、監督の一人との交流を追ったドキュメンタリー映画です。登場するのは、イスラエルに占領され併合されたエルサレムや占領下の西岸に暮らすパレスチナ人、ユダヤ人の7人の子どもたち。生まれながらにしてイスラエルとパレスチナの争いに巻き込まれ、全く違う政治形態、社会環境、家庭環境の中で暮らす見ず知らずの彼らが、「パレスチナ問題」をどのように受け止め、平和についてどう考えているのか、また、交流の機会を得て、互いをどう思うようになったかなどを語っていました。



岡 真理さん
京都大学大学院人間・環境学研究科教授。専門は現代アラブ文学、パレスチナ問題。

そして、ホロコースト生還者の孫のユダヤ人の双子が、いくつかの検問所を通り、パレスチナの難民キャンプを訪れた後に「テロを起こしているハマスを信じる者は頭がおかしいと思っているけれど、君たちの立場だったら同じことをすると思う。」と話すシーンを例に岡さんは「子どもだったから対等な立場で、純粋に相手の立場にたって物事を考えられた。対話は、占領する者とされる者、支配する者と支配される者の関係では成立しません。対等な者の間でしか成立しないのです。」と説明されました。近年、封鎖されたガザ地区は世界最大の野外監獄といわれ、希望を持ってない生活への絶望から、若者たちの自殺が増加。イスラエルではパレスチナに対する自国の政策と人権侵害に反対し、兵役を拒否する若者が増えているそうです。

※ユニセフはヨルダン川西岸地区に現地事務所を置き、東エルサレムを含む西岸地区とガザ地区のすべての子どもたちへの支援活動を行っています。

3 2020 国際理解講座① 新しい紛争解決

—テロと紛争のない世界を創るために必要なこと—

講 師 ながい 陽右さん
日 時 2020年10月31日(土)
会 場 コープこうべ生活文化センター、オンライン
参加者 51人

アフリカ大陸の最東部に位置するソマリアでは、1980年代に勃発した内戦が全国に拡大、1991年から2012年までの21年間無政府状態が続き、正式政府が発足した現在も、イスラム系過激派組織「アル・シャバáb」のテロ行為などにより内戦状態は激化・長期化・広域化しています。

2011年大学1年の時、ひょんなことからニュースで知ったソマリアは、絶えない紛争と未曾有の大飢饉に見舞われ、「比類なき人類最大の悲劇」と形容されていました。緊急支援を行うNGOですら撤退せざるを得ない凄まじい場所でしたが、どうしても目を背けることができず、周りに反対されながらも、友人とともに前身団体「日本ソマリア青年機構」を設立しました。2017年法人格を得て改称「NPO法人アクセプト・インターナショナル」になりました。ソマリアでは、内戦に加え、国土の3、4割を実効支配するアル・シャバábとの戦いが続いています。



永井 陽右さん
NPO法人アクセプト・インターナショナル代表理事。国連人間居住計画 CVE(暴力的過激主義対策)メンター。

多くの紛争は対話による和平合意の締結などで解決されますが、テロ組織が相手ですと対話そのものができません。そこで、アクセプト・インターナショナルは、テロ組織に入らないように促すための過激化防止、投降兵および逮捕者の脱過激化・積極的社会復帰事業を行っています。一人ひとりに向き合い、対話を通じて一緒に考え、彼らの考えと行動を変えていき、社会に戻し、テロ組織への新規加入も減らし、テロリストがいなくなる良い循環を作ることを目指しています。この手法は国際的にも評価されています。「テロ組織に入ってしまった彼らほど社会から取り残されている人は現実的にも政策的にもいないと思っています。日本の中立的な立場を生かし、日本初のテロ紛争解決のNGOとしてさらにさらに頑張っていこうと思います。」と話されました。

1 ユニセフ学習会

新型コロナウイルス流行の影響を受け、3月から休校に入っていた学校も6月に再開。先生方の配慮のもと、子どもたちも日常を取り戻しつつあります。9月からは学習会の依頼も入り、学習担当のボランティアにも笑顔が戻りました。それぞれの学校での学習内容、子どもたちの様子などを紹介します。



▲学習風景(尼崎市立立花西小学校)

尼崎市立立花西小学校

新型コロナ対策のため、体育館の入り口、窓も開けて、全員マスク着用といういつもとはちょっと違った感じの学習会でしたが、みなしっかりと話を聞いてくれました。世界の子どものいろいろな映像や写真を見ながらユニセフの活動を説明しました。また、国連が定めたSDGsにもふれ、具体的な取り組みも少し紹介しました。学校では、この後SDGsについて調べ学習をしたり、自分にできることを考えたりする予定とのことでした。(小山・樋口)

西宮市立深津中学校

「トライやるアクション」として街頭募金を行うにあたり「募金活動の大切さについて」との依頼でした。コロナ禍で手洗いが必須の中で安全な水が得られない暮らし、自身が訪れたことのある平和な時代と続く内戦で最大の人道危機にある今のイエメン、ユニセフのブルキナファソでの活動の実際を紹介しました。「毎日水汲みに8時間を要するエチオピアの少女」と「紛争下に生まれて」の映像をみんな真剣なまなざしで見っていました。(利根)

尼崎市立武庫の里小学校

総合学習では「世界がもし100人の村だったら」「SDGs」「貿易ゲーム」など国際をテーマにすでに学習し、先生からはそれらに沿った内容で3クラスそれぞれに学習会をとの依頼でした。事前に先生と相談させていただき、映像を見ながらユニセフ活動を説明し、支援物資を紹介し、その後「フェアトレード」のワークショップを行いました。どのクラスの子どもたちもしっかり聞いて、考えてくれました。(利根・山屋)

福崎町立高岡小学校

兵庫県ユニセフ協会設立当初から毎年訪問している高岡小学校の子どもたちは、のびのびして、和太鼓が大好き。全学年で取り組む「豊年太鼓」「祭り太鼓」などの伝統的な和太鼓の曲をいろいろな催しで披露しています。今回は世界の子どもの現状を映像で紹介し、ネパールの水がめ運び体験を通して児童労働や教育の大切さを学び、SDGsについても楽しく勉強しました。子どもたちから元気をもらった45分でした。(山屋)

Activities File 活動ファイル



兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2020年9月～12月

活動一覧 Activities List

学習会一覧				★来所
月日	訪問先	対象	人数	
9月25日	宝塚市ひらい人権文化センター	小学1～6年	20	
10月20日	尼崎市立立花西小学校	5年	89	
10月23日	西宮市立深津中学校	2年	100	
11月30日	尼崎市立武庫の里小学校	6年	90	
12月 3日	宝塚市まいたに人権文化センター	小学1～5年	14	
12月22日	福崎町立高岡小学校	5年	12	

地域活動一覧

月日	イベント名
9月 5日	ユニセフシアター&講演会(西宮市)
10月10日	2020国際理解講座②(オンライン)
10月22-29日	ユニセフパネル展「アフリカの子どもたちの物語」
10月31日	2020国際理解講座①(神戸市東灘区会場・オンライン)
11月14日	2020国際理解講座④(オンライン)
11月25-30日	ユニセフパネル展「ユニセフってなあに？」
12月1-11日	ユニセフ写真展 「長谷部誠大使ロヒンギヤ難民キャンプ訪問 ～未来を切り拓くために～」 「言葉より多くを語るもの ～ロヒンギヤ難民の子どもたちを癒す「心のケア」～」
12月19日	セミナー「コロナの時代、どう生きる？ ～心の声聞こえますか～」(オンライン)

募金一覧		2020年7月～10月
学校・団体名		
コープこうべ協同学苑、日本キリスト教団西神戸教会 (兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)		

ユニセフひょうごサポーター			2020年度分
区分	口数	学校・団体名	
団体	105口(8団体)	株式会社コープエイシス、株式会社コープ環境サービス、兵庫県生活協同組合連合会、コープ住宅株式会社、日本ボーイスカウト兵庫連盟、株式会社コープフーズ、共栄火災海上保険株式会社、兵庫県小学校長会	
個人	98口(58人)	—	
合計	203口406,000円		

ご協力ありがとうございました。

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*手数料免除

モバイルユニセフ・ クレジットカード募金

モバイルユニセフのクレジット
カード募金ならいつでもどこで
も、気軽に募金ができます。



<https://www.unicef.or.jp/mb/bokin.html>

Wish vol.63

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2021年1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

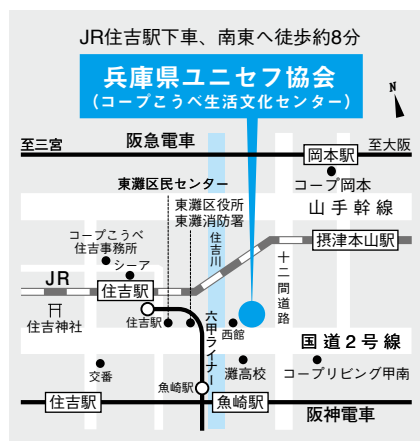
<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

ユニセフのつどい vol.19



3/6 (土)

時間 13:30 ~ 15:30

会場 コープこうべ生活文化
センター

ワークショップ「アネモネ戦
争」、合唱(神戸市立なぎさ
小学校)

3/7 (日)

時間 13:30 ~ 15:30

オンラインミーティング「活動
紹介リレートーク&ワイワイ
交流会」

3/13 (土)

時間 10:00 ~ 12:00

会場 コープこうべ生活文化
センター・オンライン

講演「子どもたちを取り残さ
ないように〜ベトナム、東日
本大震災でのユニセフ活動
〜」、舞踏&吹奏楽(神戸
朝鮮高級学校)

2021 ユニセフセミナー 知りたい、朝鮮学校のこと

講師 キムツツキョ
金錫孝さん
(兵庫朝鮮学園理事長)

日時 2021年1月23日(土)
10:00 ~ 12:00

会場 コープこうべ生活文化センター
定員 60人(先着順)



スマホ・ネットの基本は 小学生から!?

講師 竹内和雄さん
(兵庫県立大学准教授)

日時 2021年2月20日(土)
10:30 ~ 12:00

会場 コープこうべ生活文化センター
対象 小学生~大人
定員 60人(先着順)



新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく
場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の
申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会
「第21回理事会」、
「第11回評議員会」を
開催しました。

日時 2020年12月8日(火)
会場 コープこうべ生活文化センター

今回は役員改選の年にあたり、まず次年度
からの役員候補者を選任いただきました。そ
の後、2020年度のコロナ禍での活動や決
算見込み、2021年度の事業計画や予算
案などについて報告。これからの社会をつ
くる中ではより継続し連帯することが必要で
あること、そして身近な活動を大切にす
ることが世界につながることになる等、現状から学
ぶ多くの貴重なご意見をいただきました。